



桃太郎（1）

—

おかし、おかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがありました。まいにち、おじいさんは山へしば刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。

ある日、おばあさんが、川のそばで、せっせと洗濯をしていますと、川上から、大きな桃が一つ、「ドンブラコッコ、スッコッコ。



桃太郎（2）

ドンブラコッコ、スッコッコ。」
と流れて来ました。

「おやおや、これはみごとな桃だ
こと。おじいさんへのおみやげに、
どれどれ、うちへ持って帰りまし
よう。」

おばあさんは、そう言いながら、
腰をかがめて桃を取ろうとしまし
たが、遠くって手がとどきません。
おばあさんはそこで、



桃太郎（3）

みいす

「あっちの水は、かあらいぞ。

こっちの水は、ああまいぞ。

かあらい水は、よけて来い。

ああまい水に、よって来い。」

と歌いながら、手をたたきました。

すると桃はまた、

「ドンブラコッコ、スッコッコ。

ドンブラコッコ、スッコッコ。」

といいながら、おばあさんの前へ

流れて来ました。



桃太郎（4）

おばあさんはにこにこしながら、
「早くおじいさんと二人で分けて
食べましょう。」

と言って、桃をひろい上げて、洗
濯物といっしょにたらいの中に入
れて、えっちら、おっちら、かか
えておうちへ帰りました。

夕方になってやっと、おじいさ
んは山からしばを背負って帰って
来ました。



桃太郎（5）

「おばあさん、今いま帰ったよ。」

「おや、おじいさん、おかいんなさい。待っていましたよ。さあ、早くお上がんなさい。いいものを上げますから。」

「それはありがたいな。何だね、そのいいものというのは。」

つづく